

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 12月6日

【評価実施概要】

事業所番号	3470104138		
法人名	医療法人社団 博寿会 山下医院		
事業所名	グループホーム 博寿会 ほほえみ		
所在地 (電話番号)	広島市安佐北区口田1丁目14-10 (電話) 082-843-1011		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29		
訪問調査日	平成19年12月5日	評価確定日	平成19年12月17日

【情報提供票より】(19年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄筋 造り 2 階建ての 階 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	100,000 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山下医院・横畑歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「博寿会ほほえみ」は、母体である医療機関と併設施設の協力を得ながら、利用者本位の継続的、安定的な支援や、また家族や地域との関係づくりを重視し時代のニーズに応えていくための取り組みが行われている。これらにより、母体の医療機関とともに地域の医療・福祉介護事業が核となっている。ホームでは、常日頃から利用者の希望の表出しや自己決定の支援に努めながら、日々の密接な関係や馴染みの中で暮らしを支援されている。利用者の方は、ホーム全体で居心地の良い雰囲気の中で、併設施設の利用者との交流や役割、楽しみごとなどを職員の支援の下で行われているようであり、利用者の方の生き生きとした笑顔と安心感が伺われた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、更なる向上として事業所内での情報の共有や伝達方法についての現状の見直しなどが改善の課題として挙げられていたが、その後の取り組みとして、全職員で定例的な会議やミーティングなどの在り方について話し合いを行った結果、現在では伝達や情報交換などがきめ細かく行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員間で自己評価の意義や目的について十分話し合い、全職員で取り組みをしながら現状の振り返りや、新たな目標として活かしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の場には、所轄の行政担当者や地域の方々などが多く参加されており、事業所からの報告等に基づいて多くの活発な意見などがあり、双方向的で有意義な会議となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見や苦情などについては、その要因や改善などを徹底的に追及し、またミーティングなどの機会を利用しながら全職員で話し合い、質の向上につなげる取り組みを行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域での行事等の情報を収集しながら、利用者と職員が出来るだけ積極的に参加をし、また運営推進会議などを通じて交流の輪を広げるような取り組みを推進し、利用者が地域で継続して暮らし続けられるように地域との連携強化に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で利用者が地域の中で暮らし続けることを支えていくサービスを念頭に置いた、ホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内には、何時でも理念が確認できるように明示しこれらが張り出されており、また職員が確認し、意識の定着が図れるようにされている。		例えば、理念をより具体化して年度目標を掲げながら、日々の実践がより今以上に理念に基づいたものになるように、検討されることが望まれます。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域でのお祭りや、敬老会などには利用者と職員が共に出来るだけ参加をし、地域の方の立ち寄りなども積極的に受けいれたりしての交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的については、管理者、職員で話し合い理解を深めながら、今までの支援についての振り返りや、今後における質の向上につなげるよう前向きに取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場では、所轄の市担当者や地域の方などが参加されており、またホームからの報告等についても参加者よりの活発な意見交換などが行われており、いただいた意見等はミーティング等で改善などを話し合いながらサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	所轄の市担当者との関係づくりは既に出来上がっており、今後はこれらがサービスの質の向上につながるように協働関係をより積極的に推進を図る予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的には法人が発行する施設全体の広報紙や、また担当スタッフは利用者の事業所での暮らしぶりなどを手紙で伝えている。また、心身の状況についても、何らかの変化や問題が起きた時に限らず、このほか電話等できめ細かく様子を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や苦情等は、常日頃から前向きに受け止めながらその要因や改善策などをミーティングの機会に関係職員で話し合いながら、質の向上に活かしていく取り組みがなされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に持ちながら、スムーズに移行できるように配慮しており、また併設の事業所との交流も積極的に行いながら利用者が職員との馴染みの関係になるような配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し、事業所内外の研修には出来るだけ多くの職員が参加できるような機会がある。また、研修内容を報告する機会も作られている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流会を持ちながら、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談から利用に至るまで、利用者の視点に立ち対応に努めながら、またすぐに利用になった場合には、家族や関係者などに来てもらうなどして、安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常日頃から利用者を支援されるのみの立場におかないように、共に暮らし、学び、支えあう関係づくりに取り組んでいる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでは、少人数の馴染みの関係を活かして、一人ひとりの思い・暮らし方の希望、意向の把握につとめながら支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常日頃から、新鮮な目で利用者や家族の今の意向や状況を確認すると共に、ケア関係者の情報や気づき、ケアに対するアイデアを集めて、実情に即した、あるいは変化の兆しに予防的に対応していくための介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続などの支援に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの一人ひとりの受診状況を把握し、本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できるよう支援に努められている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、事業所が対応しうる最大の支援方法等、方針の統一化について調整中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの際などには、個人情報の理解やプライバシーに関することを触れながら意識向上を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重しながら、日々の中で職員同士が工夫しながら支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連の流れを利用者の意志や気持ちを大切にしながら共に進め、また利用者と職員全員が同じ物を一緒に楽しく食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者や家族から一人ひとりの習慣や好みをよく聴いて、相談しながら個別にあつた入浴の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花や茶道の心得のある利用者など、一人ひとりの気持ちや力を活かした場面づくりに努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの菜園での花の手入れなどや、天気、本人の希望に応じて、心身の活性につながるように近くへの散歩や買い物あるいはドライブ等に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は利用者の一人ひとりの外出のくせや傾向を把握し、見守りや連携プレーで支援を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器や避難路等の設備点検や、定期的に避難訓練が実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日全体を通じた食事量・バランス、飲水量の状況を記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内では、利用者と職員が共に掃除などを行っており、ホーム内の営繕関係は行届いている。また、リビング等の共用空間も五感への刺激に配慮されて居心地の良い暮らしの場となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の馴染みの物を活かして、その人らしく過ごせる部屋となっている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム博寿会ほほえみ

評価年月日 19年 11月 10日

記入年月日 19年 11月 15日

記入者 職 管理者 氏名 渡里 公一

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	・『やさしさを大切に、ふれあいを忘れずに』の理念をグループホーム独自の理念として設立以来掲げており、勤務に入る前に音読している職員もいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	・『やさしさを大切に、ふれあいを忘れずに』の理念は食堂の壁や、職員事務室に貼りだして掲げている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	・この夏に関連事業所で行った利用からの入居があり、地域密着型の典型例として、運営推進会議等の報告において紹介したことがある。その際には、遠方からの入居の方にもよく理解して頂いた。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	・近隣を含めて、見学や立ち寄りには、随時受け入れている。・祭りの際の子供御輿などの立ち寄りなどは、町内会長さんから声をかけてもらっている。・又法人の職員の中には、地元在住者もあり、情報を貰っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・今年の地域での敬老会には、入居者が参加され、11月の終わりの地域福祉祭り等へも色々な作品の展示といった形で、参加を予定している。		・ホームの入居者全員が、地域の方でもなく、住民票があるとかないとかで、敬老会の招待が来る現実の中で、どうしたら、気持ちよく参加や交流出来るかは課題である。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	・医療法人の患者や、デイケアの利用者を中心に、連携を取る場合はあるが、全く別の状況での取り組みはしていない。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	・今回は、職員の入れ替わり等の時期で、詳細な自己評価は実施出来ず、事後の報告で終わっている。今回はこの機会に、自己評価を全員が取組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・運営推進会議は、2ヶ月に1度開催しており、外部評価の実施、今回の予定についても報告している。		・運営推進会議においては、参加家族も限定され、偏った意見に陥りやすい傾向にある。より多くの御家族の意見の反映や、参加を働きかけることを検討課題。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	・広島市の事業所指導係とは、医療法人内の他事業所の関係でも、面識があるが、サービスの向上の観点においては無い。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	・入居者の方の中には、実際に司法書士の方が後見人の方、御家族が後見人手続きされた方がおられ、特に御家族に関しては、高齢の方であり、その後のことも確認している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・高齢者虐待の研修会には、管理者、職員の一部は参加した、又伝達講習会で全員にフィードバックしている。排泄のことなど、職員同志の会話でデリカシーに欠けた発言をしまい、入居者に聞こえたりして配慮に欠ける事が稀にある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約、解約の際には十分な説明をしていると考える。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>認知症の状況によるが、入居者が、運営に関して意見する機会は特に設けていない。・後見人や家族にご自分の要望をおっしゃる方はいる。何気ない会話から不満等を汲み取り、対応する場合もある。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>・請求書と共に月の便りとして、全体の広報紙を同封し、又係からの前月の状況報告は必ずしている。職員も2月に移動後4月の広報として報告した。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>・重要事項説明書で外部機関の紹介を謳い、ホームには、苦情箱を設置している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>・運営に関しては、管理者と医療法人の介護部とは話し合い等をしているが、職員全員との機会は設けていない。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>・医療法人として介護部門を統括する主任は、デワアとグループホーム全体を見ており、職員配置も1:3より厚い1:4の勤務日もある。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>・幸いにして、今年2月から職員の退職等はなく、今後も予定はないが、その様な事態の場合には、充分配慮したい。・介護部全体として、他の事業所との入居者の交流が、職員の交流に繋がると考えて、合同での企画や日常のプログラムに取り組んでいる。</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>・外部グループホーム職員研修には、回覧後希望者を募り出きるだけ順番で参加出来る状況を作っている。・次のステップにトライする予定者もいる。・研修参加後、関係書類や報告書などを添付し、介護部職員に回覧する伝達講習を行っている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>・運営者は、取組んではいないが、管理者を含め職員は、他のグループホームの管理者、職員との交流はある。・以前出席していた、グループホーム交流会には、参加出来ていない。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>個々にストレス解消は行っているようだがプライベートの事もあり、特に対応はしていない。</p>		<p>・定期的なストレスを軽減する取り組み。・介護者の入れ替わりは、入居者の不安定を招くことから、長く勤務してなじみの関係を継続出来る様に職場環境の整備は行いたい課題。・話し合いやミーティングの実施。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>・運営者は、各職員の勤務について把握している。資格取得を促すなどの声掛けは行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>・待機者の期間も職員との、なじみの関係を作る機会や場面を作っている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>・特に主介護者の話をよく聞く機会を設けるように考えている。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>・見学などの際には、当ホームを待機として余裕があるのか、その際には、ケア施設等の利用でなじみの関係を職員や場所と作る。しかしながら緊急を要す場合には、他のホームや知っている範囲での情報を知らせている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>・待機者は現在同一法人内の他事業所の利用者や透析患者関係であるため、家族との連携もとりやすく、なじみの関係を作る機会をどのように作るか検討している。</p>		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・自立支援の立場での理想はある程度統一できていると思われるが、職員にコミュニケーション能力の差があり全てが支えあう関係とは言えない。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・サービス担当者会議などへの家族の参加を呼びかけることで、本人を共に支える事の話はし始めた。 ・継続的な話し合いの場の設営		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	面会の際などに、外出や外泊などを促す事で、家族水入らずの時間を作ったりしている。		継続して、家族の都合に配慮しつつ、定期的に行えるようにしていくよう働きかける。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・馴染みの人との関係は、家族の人の他には少ない。入居者によっては、近所の方が入居初期には訪問されたが、すでに長期の入居者が増え、なかなか難しい。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・入居者同士の会話や相性は把握出来ており、座る位置などに配慮はしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	・最近諸事情で退居された方の家族は、同一医療法人内の患者であり、見かけた場合には会話などすることはある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・家族を交えてのサービス担当者会議を定期的に行い、本人の願い、家族の希望を確認している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・一人一人の生活暦はある程度把握しており、出来るだけ沿うようにと考えてはいるが、ホームのリズムもあり、団体で行動する時間もあり、本来の暮らし方とはかけ離れたものかも知れない。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	血圧、体温などのバイタルサインと表情などから推察し確認している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・家族を交えてのサービス担当者会議を定期的開催し、本人の願い、家族の希望を確認している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・緊急処置的な変化は、日々の申し送りやケアマネ、管理者、主任との話し合いや職員との連携で対応している。また必要に応じて家族との連絡も取ることがある。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・日々の介護記録は、業務に携わる職員が記入している。職員は勤務の入りの際やその他状況に応じて目を通し情報の共有化を心がけている。又連絡ノートも活用している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・グループホームの多機能は考え方が難しいが、法人内のケアとの合同での企画などはその都度検討している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・現在本人の意向や必要性に応じての左記の資源の活用はない。ボランティアに関しては、ケアとの合同でのレクリエーションの実績はある。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	・グループホームとしては、同一医療法人内への日常的なケアのプログラムへの参加、合同での企画などはその都度検討している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	・現在左記の様な地域包括支援センターを利用する対象者はいない。運営推進会議等でのセンターとの交流はある。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	・家族、本人がかかりつけ医を希望される場合は、そちらへの通院をお願いしているが、殆どの場合当医療機関での管理を希望される。又場合によっては、基幹病院との連携をとる場合がある。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	・入居者の中には、認知症の周辺症状も多様な状況に進み、近隣の医療機関への定期受診をされている方もいる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・同一医療法人との連携は、日々の健康管理、服薬をはじめ、耳鼻科を含めた医療連携をとり、下肢筋力の維持には理学療法士のアドバイスを求めるなど他にはないケアが出来ている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	・透析医療施設の関連と言う事もあり、今年も入院があったが、残念ながらそのまま退居の事態になってしまいました。もちろん早期退院には、連携していきたい。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	・この議題については、個々の状況にもよるし、医療との絡みもあると考えるので職員間で話しをしたことは、あるが方針は統一できていない。		
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	・現段階での話し合いは出来ていない。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	・前回の住み替えから、すでに1年以上経過したが、「まだ早いのでは?」とは思った、次の施設関係者とも1度の面会で十分な情報交換が出来たとは思わなかった。しかし家族の意向に左右される事柄とも考える。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	・各入居者の重要書類の保管、記入時にも配慮しているが、不十分な点があり、又声掛については全ての職員が全てのことに自尊心や羞恥心に配慮した声掛けが出来ているとは言えない。		・職員への指導等・ミーティングでの情報共有と統一性の介護の実施、声掛には自分では普通が、他人にとっては、傷付ける言葉等の認識と学習が必要。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	・選択肢を簡単な言葉で言い、選んでいただくが、その選択肢の中に利用者の答えがあるか疑わしいという懸念もある。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・日々の業務が介護者のペースで決められており、それがホームのペースになっており希望通りとは行かないところがある。しかしながら入居者がすべて決定できるわけでもない。		・職員への指導等・ミーティングでの情報共有と統一性の介護の実施
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	・その日の衣類は、出来る範囲で自主性を尊重しているが、美容院は、出張サービスを利用している。以前は家族が行きつけにお連れしていた人も、身体的に難しくなってきた。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の能力に合わせ、調理から片付けまで行っている。押し付けにならない様にその日の状態に合わせて行わない日もある。調理等が苦手な方にも、メニュー決めといった形で参加してもらっている。		・全ての職員が認識を共有する。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・日々のお茶も冷たい、熱いの嗜好に配慮し、牛乳嫌いなども把握している。献立やおやつは、全員ではないが、食べたいものなど聞いて作る場合もある。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・入居者によっては、声掛けによる紙パンツから、パットへの良好支援も出来、家族への報告も出来たが、排泄の不安定な方もおられ、現在もいろいろと思案中。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・体調に合わせての入浴にはしているが、通院やデ ワとの兼ね合いもあり、スケジュールはある程度組 んでいる。また声かけ程度で、一部始終介助なし に入浴可能な方はひとりしかいない。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気 持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	・寝具、室温など随時調整を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしてい る。	・お茶やお花のたしなみがある方には、花生け などお願いすることがある。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援 している。	・出来る範囲での外出時の買い物は、希望に応 じて対応している。甥や姪にこずかいをあげた いと言われた入居者には、後見人と連携し、ある 程度のお金を管理して貰っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支援している。	・毎日希望に沿ってと言う訳ではないが、散歩、 お茶会、畑仕事、花の水やりなど、出来る範囲 で行っている。家族との外出も支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別ある いは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援し ている。	・普段は行けない所が、どんな所かわからない が、誕生日には、その人の力量に合わせて、外食、 買い物等を職員一人がその人のためだけに支援 する機会をもっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・現在電話を掛けられて、手紙を書ける人も限られるが、出来る範囲で支援はしている。		家族に了解の後、電話にて会話をさせていただく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	・家族の訪問は日常的にある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束をするような場面はなかった。・精神的に不安定な方がおり、継続的な神経科への通院で、ある程度の服薬管理を行い身体拘束しない状況を継続したい。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・鍵については、徘徊飛び出しの対象者が不在の際には、ドアをあける努力はしている。ドアから出ると階段があり、転落の危険性は排除出来ない。この件に関して対象者のインシデント報告は3件ある。(昨年も評価機関にはご理解頂いたと考える)		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	・入居者の所在に関しては、日々確認しているが、移動の際には、所在が欠落することがある。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	・刃物と思われる物については預からせてもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	・インシデント報告は、その都度行い情報の共有化を行っている。火災訓練は実施している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	・医療法人の看護師との連携が多く、指示を仰ぐことが殆どである。また、夜勤帯においてもマニュアルを作成して緊急時に備える。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・火災訓練は実施		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	・サービス担当者会議などで、特に転倒などについてのリスクは説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・朝、もしくは不調時のバイタル測定。対応は医療法人の看護師との連携が多く、指示を仰ぐことが殆どである。勤務交代の際には申し送る。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬の数も多く、全ての職員が全ては把握できていないが、個別にまとめたファイルがあり、その中を確認したら把握出来るようになっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	・殆どの人は、快便ではあるが、中には現在排便不安定な方もおられ、検討中。できるだけ食品による排便を促したいという方針には職員は一致している状況。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	・日々の口腔ケアと定期的な洗浄、人によってはより回数を増やした洗浄プログラムを組んでいる。また、口臭が特にある方についてはマウスウォッシュなどで対応。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・定期的な水分補充・バランスの取れた食事の提供と、定期的な血液検査での確認と、体重測定は実施している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・インフルエンザの摂取、その他感染予防の毎日の次亜塩による拭き掃除の実施・何らかの皮膚疾患の疑いの際には、初期段階での医師診察。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	・新鮮な食材管理・業務内での衛生管理の実施。まな板の漂白、熱湯消毒の徹底。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	・花を飾り、玄関ドアを常時開放し、出入りしやすい環境にしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・玄関、廊下には季節のわかる掲示物		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・畳の場所、北`ソグ`の椅子、ソファ-と形態が違う場所はある。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・短い方でも半年居住されており、すでになじみのものになっている。入居者によっては、仏壇なども居室にある。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・清掃の際に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・手すり、バリアフリー、また、食事の際にテーブルの高さが合わず、時折介助を要していた方に座布団で調節し、自立した食事を提供出来る様になった。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	・短い方でも、半年居住されており、すでになじみのものになっている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	・外に洗濯干し場がありベンチに座ってひなたぼっこ出来る場所がある。		